

2023年9月3日

「終末の希望」

コリントの信徒への手紙一 15:50-52

竹島 敏牧師

私たちはいつか、この地上の生活を終えてここから離れてゆきますが、同時に再会の時が与えられる、という希望があります。しかしその本質は、私たちが想像するような死者の復活、というものではありません。復活について最も知っておかねばならないことは、「自然の命の体」が蒔かれて「霊の体」が復活することだ、とパウロは44節以降で述べています。このことと、エゼキエル書37:5以下と併せて考えるならば、復活というのは、朽ちた「自然の命の体」に神の霊が吹き込まれて、朽ちない「霊の体」という新たな存在に生まれ、ということなのであります。つまり、地上の生活につながれている肉の体とは全く異質の、それぞれ固有の「霊の体」が与えられる、そしてそれは、新しい世界が始まる終末の時に起こるのだ、とパウロは言いたかったわけです。

では終末の時まで、死者はどのようにあり続けるのでしょうか。コリントⅡ4:10においてパウロは、「わたしたちは、いつもイエスの死を体にまもっています、イエスの命がこの体に現れるために。」と語っています。つまり、イエスを救い主と信じる者は、イエスの命に包まれて天へと導かれ、その命のなかで安らかに存在し続けるということなのだ、私は思うのです。そして教会の主、交わりの主であるイエスは、信じる者たちをご自分の命でそのように包みながら、終末の時まで互いの交わりを持たせてくださるのだと思うのです。私たちはそのような希望を持って歩むことができるのです。洗礼の恵みに与った者たちは聖餐の恵みに与り、朽ちるこの体は、主イエスの朽ちない命に与ります。霊の体として復活することを望み見、友や家族の上にもお導きがあることを信じて切に祈りつつ、それぞれのこの世の旅路を、今週もここから旅立ってまいりましょう。